

いると安心! かかりつけ医

特集

初めての入院

不安&疑問にお答えします!



大学病院と密接な関係で
医療連携を推進する

かかりつけ医と
獨協医科大学
埼玉医療センター
との連携

リハビリテーション科

活動を育む
リハビリテーション
医療

初めての入院 不安&疑問にお答えします!

初めてだと「入院中、どう過ごせばいいの?」と不安になりますよね。
多くの病院では、患者さん個々にあわせてスケジュール表を作成します。それがクリニカルパスです。今回、このクリニカルパスについて、齋藤 登先生にお伺いしました。



総合患者支援センター長
(クリニカルパス推進部門長/
入退院支援部門長: 総合診療科)
齋藤 登 先生

1986年 東邦大学医学部医学科 卒業
1990年 東京女子医科大学大学院 修了

1994年 5月 東京女子医科大学 第二外科学 助手
2004年 11月 同 総合診療科 講師
2005年 4月 同 クリニカルパス推進室長
2008年 8月 同 総合診療科 准教授
2016年 4月 獨協医科大学越谷病院(現在の埼玉医療センター) 総合診療科 教授
2019年 6月 獨協医科大学埼玉医療センター 総合診療科 主任教授
総合患者支援センター センター長
入退院支援部門長・在宅医療部門長・クリニカルパス推進部門長・医療連携部門長・医療福祉相談部門長・がん相談支援部門長

YouTube YouTubeでは今回のインタビュー動画を配信中!



クリニカルパスって?

クリニカルパスとは、患者さんが受ける治療内容がまとめられた診療計画のことです。クリニカルパスは患者さんにお渡しするものと、医療スタッフ用の2種類に分かれています。

患者さん用のクリニカルパスには、患者さんが現在どのような状態で、どんな治療を行っているのかが分かりやすく記載されています。クリニカルパスの縦軸には治療、検査、食事、リハビリなどの項目が並んでいて、横軸は退院までの期間が記されています。いわゆるタイムスケジュールのようなものですね。旅行の計画書をイメージしてもらえたら分かりやすいと思います。

医療スタッフ用のクリニカルパスは、患者さんのケアに携わる医療関係者全員が、電子カルテで情報をリアルタイムに確認できる計画書です。導入する目的のひとつに「医療の標準化」があります。クリニカルパスの導入により、すべての医療スタッフが統一された医療を行うことが可能になりました。

導入のメリット

医療スタッフは、入院前の患者さんの状態を正確に把握し、治療の計画を立てる必要があります。同時に「治療が終わったら早く退院して自宅に帰りたい」という患者さんの希望にもお応えするため、入院用ベッドのコントロールも重要です。特に、当院のように多くの患者さんを受け入れている大規模病院では、ベッドコントロールが必要不可欠です。このように、医療の質を担保しつつ、順調に患者さんを退院に向けてケアしていくためのスケジュールを検討するときにも、クリニカルパスは役立ちます。

現在当院では、診療科ごと、疾患ごとに何十種類ものクリニカルパスが用意されていますが、もちろん入院されるすべての患者さんにクリニカルパスが適用できるというわけではありません。例えば、「胆のう摘出手術」を受ける患者さんのうち、重度な認知症や心不全を患っている方などは、通常のスケジュールでの医療行為はできません。その際は、クリニカルパスの基準から除外して、その人に合わせた個別治療を進めることとなります。特定の疾患ごとにクリニカルパスの適応基準が設けられていることで、患者さんにとって適した診療計画ができることもクリニカルパスを導入するメリットだと思います。

当院のクリニカルパスについて

当院では、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、検査技師などの多職種が集まってひとつのクリニカルパスを作成します。また、社会福祉士も参加し、患者さんの視点で「クリニカルパスに難しい医療用語が含まれていないか」「患者さんが理解しやすい内容や表現になっているか」などの確認も行っています。

こうしてチームが丸となって作り上げたクリニカルパスは、のちに患者さんのお手元に届くこととなりますが、患者さんにとってクリニカルパスを利用する最大のメリットは、「治療の過程がイメージしやすく、不安が低減できること」だと思います。それに加え、どのような状態になったら退院できるのか、退院した後どんな症状が出たら病院に電話した方がいいのか、ご自身の状態や退院後に注意すべきことへの理解も深まります。

当院では、患者さんに向けて自信を持って医療行為を提供できる証として、クリニカルパスを使用しています。クリニカルパスの対象ではない患者さんに対しても、それぞれに合わせた医療を行います。患者さんと我々が一緒に治療に向かうことが最も大切ですので、当院のクリニカルパスを実際に使われた方は、ぜひご意見をお聞かせいただきたいと思います。

患者さんの安心のために

入院される患者さんは様々な不安を抱えています。まずは患者さんの不安を受け止め、コミュニケーションを図り、良好な関係を築くよう努めています。クリニカルパスを活用することで、看護師は入院中の医療行為や看護援助の流れが把握しやすくなります。患者さんにとっては、入院や検査、治療の流れがイメージしやすくなり、不安の軽減が期待できます。患者さんが安心して治療を受け、退院できるよう支援をすることが看護師の大切な役割です。



茂木 優季さん
看護師

かかりつけ医と 獨協医科大学埼玉医療センター との連携

日頃の診療や健康管理をしてくれる
身近なお医者さん“かかりつけ医”。

体のちょっとした症状が気になるときや、
健康診断で異常な数値が出たときなどに
大変頼りになる存在です。

イザというときのかかりつけ医、あなたはいますか？



入退院支援部門

入院前から退院後まで 安心な療養生活をサポート

入退院支援部門では、患者さんの情報を入院前に入手し、問題
解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び居宅
療養支援を通して、その方らしい療養生活をサポートします。



入退院の流れ

外 来

診療科にて入院決定し、入院日が決まります。クリニカルパス対象疾患の場合
には、患者用パスをお渡しし、入院中の生活や治療計画等をイメージし、準備
した上で入院に臨めます。

入 院 前

看護師、薬剤師、栄養管理士、理学療法士、社会福祉士など多職種が患者
さんとの面談を通じ、様々な情報収集に努め、入院前に病棟看護師と共有します
(入院生活の説明、服薬中の薬剤確認、入院前に利用していた介護・福祉サー
ビスの有無等)。

入院当日

入退院受付にて、手続き後、病棟へ

入 院 中

検査・手術等の治療と並行して、患者さんやご家族が思い描く退院後の生活を
実現できるように、多職種で入院早期から退院に向けた支援方針を協議します。
協議した支援方針は書面にて患者さんやご家族に提示します。

退院準備

支援方針に基づき、退院後安心して生活を送れるよう必要なケアの指導や在宅
でのサービス利用調整など、患者さんに合わせた具体的な退院支援を多職種
で実施します。必要に応じて地域の関係機関とも連携をします。

退 院

主治医の判断で
退院となります。

入院に関する詳細は、下記HPをご参照ください。
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/hospitalization/>



地域の保健・医療・福祉機関と連携しながら支援します

私たち社会福祉士は、病院の病棟専従スタッフではありますが、医療的な
視点ではなく、出来るだけ入院される患者さん側の視点に立つ必要がある
と考えています。患者さんが今までどのように生活されていたのか、その
生活背景を把握した上で、入退院支援を行うことが重要です。「誰のため
の支援なのか」を見失わずに、地域と密な連絡調整を行いながら患者さん
を支えていくことが、社会福祉士として最も大切なことだと思います。



清水 博人さん
医療ソーシャルワーカー

入退院支援部門へのご相談窓口は、10ページをご参照下さい。

地域医療の 3つの安心

かかりつけ医と獨協医科大学埼玉医療センターが連携して、地域医療に貢献します。

中核病院

治療が難しい病気でも、高い技術を持った専門医に診てもらえるのが中核病院です。しかし、いきなり中核病院を訪れると、診察まで長時間待ったり、選定療養費がかかったりします。

だから、かかりつけ医の紹介が必要なんだ

いると安心!
かかりつけ医

知ってて 安心!
かかりつけ医と
中核病院の特長

かかって安心!
かかりつけ医と
中核病院との連携

かかりつけ医 (クリニックや医院など)

あなたのことを良く知っていて、いざという時に中核病院の専門医を紹介してくれます。日ごろから気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことが安心につながります。

それぞれの特長 を理解しよう

患者

獨協医科大学埼玉医療センターでの専門的な検査、手術、治療

特長

重篤な患者に対して検査、手術を提供してくれる。
かかりつけ医と連携して、より良い治療方針を提案してくれる。



あなたの街の
クリニックへ
受診

日常診療

特長

じっくり診察してくれる。
日常の健康管理についてアドバイスをくれる。
検査・手術などが必要なとき、適切な病院を紹介してくれる。



分かりました!

大学 病院へ
ご 紹介

Aさんをご
紹介しますので
お願いします

紹介元 の医院へ
ご 報告

Aさんの
治療は...

なるほど、
では...



ちょっと
お腹が痛くて...



多職種が関わり、 早期の社会復帰を めざします

患者さんの早期退院、早期社会復帰を目指して医師、看護師、療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、メディカルソーシャルワーカー、医師のサポートをするクラーク、秘書など、多職種と連携を取りながら、患者さんへのリハビリテーション治療を進めていきます。多職種が関わるため、他の科との定期的なカンファレンスなど、患者さんの情報交換や情報のアップデートを行う場をとっても大切にしています。

様々な事情を抱え、リハビリテーション治療に前向きになれない患者さんには、しっかりと寄り添いながら、まずは前向きな気持ちを持ってもらうところからスタートします。患者さんの希望を尊重しながら、少しずつ目標へ近づけられるようにお手伝いするのが我々の使命だと思います。



リハビリテーション科



活動を育むリハビリテーション医療

個々の患者さんに合わせた
リハビリテーション医療を提供します

当院は埼玉県東南部の中核となる病院で、多くの急性期患者を受け入れています。当科の役割は、急性期におけるリハビリテーション医療を提供することです。赤ちゃんからお年寄りまで幅広く患者さんを受け入れ、重症な患者さんに対しても各患者さんの状態に合わせてリハビリテーション医療を進めています。従来のリハビリテーション医療は、機能を回復する、障害を克服することと捉えられていました。しかし、現在ではこれらを踏まえつつ、人の営みの基本となる「活動」を育むこと、というプラスの思考で捉える考え方に変わってきています。例えば、手術などで活動性低下が余儀なくされる患者さんでも、活動性を落とさせない、ということがです。病气やケガの状態は、患者さんにより異なります。我々は、各患者さんの活動の予後を診断し、早期退院、早期社会復帰を目指して、最善のリハビリテーション治療を実施してまいります。

セラピスト



理学療法士

脳血管疾患や神経難病の患者さん、整形外科疾患の方に対して、立位・歩行の安定を目指します。



作業療法士

将来の生活を見越した心とからだの基本的な機能改善を援助します。新たな機能低下を予防し、その人らしい生活の獲得を目指します。



言語聴覚士

言語や聴覚、発話、飲み込みなどの機能に障害がある人に対して、機能の維持向上を図るための訓練を行っています。

PICK UP ロボットスーツHAL®

県内初の導入で先進的なリハビリテーション支援を

下肢に障がいがある方々や、脚力が弱くなった方々を対象にした医療機器です。普段では負担がかかり困難な日常動作でも、HAL®のアシストがあることで様々な動作の練習を行うことができます。脳からの信号により、装着者の下肢関節動作をアシストします。当院は、埼玉県内で初めてHAL®を導入した治療を行っています。



設備紹介



リハビリテーション室



3職種小児リハビリテーション医療



心臓リハビリテーション治療

地域医療機関と情報共有・連携を図り、
様々なご相談に対応します

総合患者支援センターのご紹介

総合患者支援センターは、医療連携部門、医療福祉相談部門、入退院支援部門、在宅医療部門、クリニカルパス推進部門及びがん相談支援センターから成り、患者さんや地域医療機関の立場に立ってそれぞれの役割を担っております。

現在、当院の入退院患者数は年々増加の一途をたどり、年間約20,000件を超える入退院数となっております。Patient Flow Management (PFM) による入退院支援の強化並びに円滑化を図っておりますが、多くの患者さんの退院後にまつわる継続した医療支援等は当院のみならず、地域医療機関の皆さまのご支援が是非とも必要です。

当院を受診される患者さんにもつわる様々な問題の解決を医療・保険・福祉等の有機的連携によって進め、当院へ患者さんをご紹介いただく地域医療機関との密接な連携、患者さん及びご家族からの相談に応じられる体制の確保、患者サービスの充実と推進に日々努めております。

各部門の業務内容

医療連携部門

近隣の医療機関（かかりつけ医）から

ご紹介いただいた患者さんに対し、診療予約取得のお手伝い、その診療結果を紹介元に報告するといった業務を行っています。

医療福祉相談部門

専門の医療ソーシャルワーカーが心理的・社会的な問題に対する解決・調整援助、社会復帰に対する援助、経済問題に対する解決・調整援助等の相談を受け付けております。

在宅医療部門

入院患者さんや通院患者さんを対象に、自宅で治療が受けられるように、訪問診療や訪問看護においてサポートいたします。

がん相談支援センター

がん患者さんやご家族の相談者に、科学的根拠とがん専門相談員の実践に基づいた信頼できる情報提供を行い、その人らしい生活や治療選択ができるように支援いたします。

入退院支援部門

入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び居宅療養支援を通してその方らしい療養生活をサポートいたします。

クリニカルパス推進部門

クリニカルパス（病気ごとに治療や検査、看護ケアなどの内容及び診療計画を一覧できる形式にまとめたもの）を



YouTubeでインタビューを
見てみよう!

今号の特集、「初めての入院 不安&疑問にお答えします!」は齋藤登先生にインタビューしました。YouTubeの動画で見ることができますので、ぜひご覧ください。

コンテンツ

初めての入院
不安&疑問にお答えします!

- 「クリニカルパス」とは?
- 患者さんにとって「クリニカルパス」を用いるメリット
- ご家族にとっての「クリニカルパス」とは
- 「クリニカルパス」はどのように作られるか
- 患者さんやご家族へのメッセージ



こちらのQRコードを読み込んでご視聴ください。
配信は予告なく終了となる場合がございます。

獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌
まもるがかり
発行 獨協医科大学埼玉医療センター
〒343-8555
埼玉県越谷市南越谷 2-1-50
TEL: 048-965-1111 (代)
048-965-1147 (総合患者支援センター)
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/>
制作 株式会社メディア・プラン
<http://www.media-plan-tokyo.co.jp/>

次号予告 第5号 2022年4月発行予定

「乳がん」ってどんな病気?

女性に最も多いがんのひとつで、患者数は年々増加しています。しかし早期発見・治療で、約9割が治る病気といわれているため、定期的にかん検診を受診することが大切です。次号では、この「乳がん」について乳腺科の先生にお伺いします。

※内容は変更になる場合がございます。



総合患者支援センター長 (クリニカルパス推進部門長/入退院支援部門長: 総合診療科) 齋藤 登

1. 初めての当センターを受診される際の流れ
地域の医療機関から、診察依頼のFAXを送っていただきます。
地域連携科で該当診療科の予約を取ります。
受診日に専用窓口で受付をします。
※まず地域の医療機関を受診され、専門的な診療が必要と判断されて、当センターを受診されるのが一般的な流れです。

2. 入院前の情報共有
病歴はもちろん、アレルギー情報、日
用いた診療をお受けになるための、さまざまな運用支援を行い、安全で適切なチーム医療の推進につながるためのサポートを行います。

3. 退院、転院に向けての支援
入退院支援部門では、看護師と医療ソーシャルワーカーが中心となり、地域のケアマネージャーや医療機関と連携を取り、退院・転院の調整を行います。
また、訪問診療、訪問看護を行う在宅医療部門とも連携し、退院調整や居宅療養など患者さんにとって必要な支援を行っております。

患者さん・ご家族の窓口として
外来受診や入院に関する不安、医療費や生活費についての相談、セカンドオピニオンに関する相談、介護保険・社会保険・社会保障等各種公的制度についての相談、退院後の療養先・転院・在宅医療についての相談、がんに関する相談、その他院内設備や医師・看護師・技師等当院職員に対するご意見・ご要望など、様々なご相談やご意見をお受けします。患者さん及びご家族のご相談の内容に応じて各関係部署と連携し解決に向け支援いたします。

ご案内

総合患者支援センター医療連携部門のご案内

業務時間 (病院休診日を除く)	平日 土曜日 (第3週を除く)	午前9時00分 ～午後5時00分
連絡先	電話	048-965-1147 (直通)

※ご紹介状をお手元にご準備の上、ご連絡をお願いします。

ご紹介状をお持ちの患者さんは、
初診の予約ができます。

獨協医科大学埼玉医療センターでは、初診時の外来待ち時間を短縮するために、ご紹介状をお持ちの患者さんより、お電話にて予約受付を行っております。



“笑顔”がつなぐ患者さんとの
ふれあいの時間を
大切にしています



理念

常に研鑽し患者の信頼にこたえる

病院概要

- 開設年月 昭和59年6月
- 許可病床数 923床
- 診療科名 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、乳腺科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、集中治療科、こころの診療科、皮膚科、リハビリテーション科
- 診療受付時間 午前8時30分～11時30分
(但し、腎臓内科、脳神経内科、小児科、整形外科、産科婦人科については変更なく、従来どおり午前8時30分～10時30分となります)
- 休診日 日曜、祝日、第3土曜日、開学記念日(4月23日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 面会時間 全日(12:00～20:30)

アクセス

東武スカイツリーライン 新越谷駅下車徒歩3分
JR武蔵野線 南越谷駅下車徒歩3分



 獨協医科大学埼玉医療センター

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 TEL:048-965-1111(代)

